

「科学技術政策特論」からのお知らせ

～ 第14回講義は**科学技術を通じた国際貢献**がテーマです～

履修予定の有無に関わらず、学部生、文系、さらに教員の方のご聴講も歓迎いたします

日時 7月19日(金) 5講(16:30-18:00) 場所 工学研究院
オープンホール
(B-201)

第14回

科学技術を通じた国際貢献 ～地球のために、未来のために～

科学技術振興機構 参事役

(地球規模課題対応国際科学技術協力担当) (本学OB)

水間 英城

水間先生からのメッセージ

科学技術を通じた国際貢献の事例として、独立行政法人科学技術振興機構(JST)と独立行政法人国際協力機構(JICA)が連携して推進している「地球規模課題対応国際科学技術協力:SATREPS」事業を取り上げ、開発途上国のニーズに基づく地球規模課題の解決と将来的な社会実装に向けた国際共同研究の推進方策についてご説明します。現在、39か国において78のプロジェクトが、「環境」「低炭素社会・エネルギー」「生物資源」「防災」「感染症」といった広範囲の分野で実施されています。実は、北海道大学も日本側の有力な研究機関としてSATREPSの担い手を演じています。SATREPSプログラムの全体像といくつかの具体例についてご紹介します。



水間 英城 先生

1983年 北海道大学大学院工学研究科資源開発工学専攻修士課程修了
科学技術庁入庁。科学技術政策局政策課長補佐、文部科学省研究開発局
核燃料サイクル研究開発課長、科学技術振興事業団社会技術研究システム
推進室次長、内閣府原子力安全委員会事務局審査指針課長・総務課長、
国際原子力機関(IAEA) 保障措置局トレーニング・エキスパートなどを
経て現職。

目下、開発途上国との科学技術協力の推進のため、世界を飛び回る
日々を送られています。

